

4008 地球のかおり：「遭難寸前」(産経新聞) 心模様

スイスアルプス、グリムゼル峠、早朝の目撃。

他人さんの車ではない。大切な相棒。一夜にして、こんな状態になった。

驚き。昨夜の状況では、まったく考えられないこと。果たしてどうしたものか。

イタリア国境沿い、ヌーフエネン峠を経て、サンモリッツへ行く道中だった。

私は、峠や国境、辺境が大好きで、グリムゼル峠にさしかかった。

景観も立地も、私の好みに合う。またまた、道草。

峠を北に下りたところに三叉路がある。天候も悪くなかった。

右は、ルツエルン、左は、インターラーケン。

車には、食料も積み込んでいた。装備も十分に準備しているつもりだった。

ここを中心に、東に西に、南に北へと探訪を重ねたいと、

軽く考えていた。スイスの数多い峠越えの中でも、グリムゼル峠や周辺の峠は、

冬は、十数メートルの積雪で、通行不能になる。夏の3ヶ月間だけ、

精一杯の美しさを見せるらしい。たまたま、いい天気が続いていたので油断。

やはり山岳地帯。季節も季節、いい天気が続くはずがない。

ある程度の危険、天候、降雪、寒気は、甘受する覚悟は出来ていた。

準備もしてきているが、道草が長かった。時は、6月12日、金曜日だった。

にわかには雲が集まり、峰々をおおいつつみ、空は雪雲になった。

そして、その豹変には驚かされた。雪が降り出して、痕跡をすべて消し去ってしまった。

視界は、数メートルに限られてしまい、雪は激しくなる一方。

何度か、往復しているのに、道路の事情は把握しているつもりだった。

想定外の天候急変。自然は恐ろしい。こうした状況になると、パニックになるもの。

ラッキーは、続いた。宿かレストランかわからないが、ボ〜と建物の幻影が現れた。

どんな状況かわからなかったが、駐車スペースがあった。

緊急避難が急務。駆け込んだ。管理人？の老人が一人。食堂も閉鎖。今はオフタイム。

外の様子を見ながら、黙って受け入れ、部屋に案内してくれた。

嵐のように荒れ狂い、夕刻から、ますます激しくなって、一步も外に出られない状況になった。

宿？のおじさんは、平気な顔をして、淡々と仕事をしている。食事の準備かもしれない。

こうした状態におかれた時、あたたかい「暖」があり、
あたたかい「食」があるのは、なんと有り難いことか。料理の美味しかったこと。
おじさんの心使い。感謝とかの言葉では不十分。
外は吹雪というより、嵐ではないか。
二重にガードされた鉄格子の窓に、ビュービューとたたきつける
嵐雪の音が、聞こえてくる。一晩中、吹き荒れた。翌朝も、ラッキーが続いた。
昨夜の嵐が嘘のよう。小窓から、光が差し込み、朝になっていた。
好天気だった。早速、飛び出したのは言うまでもない。
台風一過の後、晴天だけでは、見られないような、さわやかな光景。
この瞬間を体感したいと、常々願っていた。ラッキー、スマイル、オン、ミー。

犬は喜び、野をかけまわるではないが、画像記録に、飛び回った。
一通り目的を達し、宿に戻った。この後のあたたかい一杯のコーヒーは、最高だった。
両手で、カップから暖をとるように持ち、口に運ぶ。最初の一口がこたえられない。
朝食が終わると、再び戸外へ。そうだ、車があったのだ。

子供の頃、車は憧れの的。特に外車は、夢のまた夢だった。
この時、憧れのフォード車だった。
氷の塊が張りついた車を見て、不安がよぎった。昨夜、ケアする間もなかった。
バッテリーが、あがってしまっているのではないか、
心の中は、不安でいっぱい。思わず手を合わせ、神様に祈った。
なんと表現したらいいのだろう。ものの見事に、一発で始動。しげしげと車を見た。
正面から見ると、「厳しい冬そのものの作品」のように見えた。
このさわやかな朝の光景が、そのまま作品になった。

京都ホテルオークラ、1ヶ月の個展に出品。

横3メートル、縦2メートル、の作品にして展示させていただいた。

評判になった。偶然の経緯で、現在のトヨタ自動車、第11代目、**豊田章夫社長**から、**フォード社の会長、ウイリアム・フォード氏**に寄贈されることになった。
そして、作品が、アメリカのフォード社へ。

寄贈時、作品のデブリカを前に、お二人のツーショット。サイン入りの記念写真をいただいた。
私の宝物。今も手元に。そして、和紙夢絵への挑戦を本格化させることになった。
なかなか予測できないことが起こるのが、人生らしい。
良き思い出は心の財産。その後、「地球4周ひとり行脚」の本を、2,000冊出版。
この本の、第7章、159ページにも、少し触れている。
みなさんのご支援で、**1,900冊は完売**。今、手元に約50冊の在庫。

今更でなく、人生まだまだ、これから夢挑戦。今現在、活動している内外の旅や画像記録が、
5~10年後に役立つと信じて、精力的に、日々活動、積み重ね中。
いささか気持ちが、ゆれた時もあるが、継続は力なりと、自分自身を鼓舞。
脱皮しない巳は、死ぬという。気持ちを切り替えて、創意工夫、楽しく頑張っているところ。

下記は、産経新聞の書評。



いろいろな方々のサポートで今日がある。信頼を裏切らないようにという気持ちが、人一倍強い。
幼少のニックネームは、「がんちゃん」 頑張りのがん、頑固のがん、らしい。
ここまでくると、失うものは何もない。もし、確かなものがあるなら、
それは、今まで積み重ねてきた自分自身。心身健康なら、まだまだ、積み重ねが可能。
マイペースで、全力投球。面白く、楽しく、創意工夫して、頑張りたい。